



ところがこの震度7にも欠陥があり、それは震度7の定義として「家屋の崩壊が30%以上」と規定していたので、その調査、計算に時間がかかり、しかも都会地と過疎地では計算の基準値が変わってくるので、これが改正され、現在は気象庁の定めた震度計で観測する測定システムにより自動的に値が出力し、速報となって発表される。



現在の震度の数値は、10段階で発表する。

0, 1, 2, 3, 4, 5弱、5強、6弱、6強、7。(最大が7)

(東日本大震災の富岡における震度は6強でした。)

Q：地震波の伝わり方に相違があるそうですが？

A：ゴムマリの例を挙げます。ゴムマリは力を加えると、変形し、力を抜くと基に戻る性質を有し、これを弾性体という。

弾性体には弾性波という波が伝わる性質がある。弾性体の内部を伝わる波には、P波とS波があり、また弾性体の表面に沿って表面波が伝わる。

地球は一種の弾性体であって、地震が発生すると、地球の中をP波とS波が伝わり表面に達すると、更に表面波を呼び起こし、それも地球の表層に沿って伝わる。

P波は、押したり引いたりする動きが伝わる波で、ある点の振幅の振動の向きが、波の伝わっていく方向と同じである。

S波は、ある点での振動の振動の向きが、波の伝わる方向に直角である。

このことから、それぞれ縦波、横波と称する。

同じ弾性体を伝わる速さは

